



人の可能性を、畑から広げる-

# ASCareの農福連携

農福ポート藤枝事業所では、障がいのある方の就労機会を広げながら、地域農業を支える「農福連携」に取り組んでいます。農家から依頼された農作業について、農福ポート藤枝事業所が作業内容や受け入れ環境を調整し、同事業所の取り組みに参加するASCareのスタッフがチームで作業を行っています。チームは、サポーターを務める村松勝哉さんと、他3名のスタッフの計4名で構成されています。そして実は、ASCareのコア事業である「訪問入浴」と意外な共通点が…。ASCareの中でも、まだ十分に知られていない農福連携の取り組み。今回は、業務支援課（農福）の村松さん、提携先の農福ポート藤枝事業所の中村所長、受け入れ農家である大新農園の大石さんに、それぞれの立場から活動への思いを伺いました。

「農福連携」とは、農業と福祉が連携し、障がいのある方の働く機会を広げるとともに、地域農業の人手不足や担い手確保にもつなげる取り組みです。

**Q.普段はどのような仕事をしていますか？**

**村松さん(ASCare/サポーター)：**午前と午後にそれぞれ2時間程度、1時間ごとに休憩を取りながら、苗植えや収穫、除草、ハウスの片付けなどを行います。夏場は、茶園での除草作業や、てん茶をつくるための被覆作業などにも取り組んでいます。冬のレタス栽培では、苗植えから収穫、片付けまで一連の流れを経験できたことが印象に残っています。普段は工程の一部を担当することが多いため、農作物が育ち、収穫されるまでを見届けられたことは、とても貴重な経験でした。

**Q.サポートするうえで大切にしていることは？**

**村松さん：**ただ作業をお願いするのではなく、朝礼で「なぜこの作業が必要なのか」「農家さんのどのような助けになっているのか」を必ず伝えています。仕事の意味を理解することが、責任感ややりがい、一人ひとりの成長につながると考えているからです。これからもスタッフと農家さんの双方にとって、価値のある支援を続けていきたいと考えております。

**中村所長(農福ポート藤枝事業所)：**農家さんが普段行っている農作業の中から、お手伝いできる作業を切り出し、安全に行える工夫をした上で皆さんへお伝えしています。作業はスピードよりも丁寧さを重視して取り組んでいたことで仕上がりの質が上がり、農家さんから大変好評をいただいております。今後も少しずつ新しい作業に挑戦

しながら、一人一人の「できる」を増やしていきたいと思っています。

**Q.農家の立場から感じていることは？**

**大石さん(大新農園)：**暑い日も寒い日も、皆さんが本当に丁寧に作業してくださり、心から感謝しています。農作業は、人手が必要な時期や作業が集中する時期も多いため、皆さんの力が大きな支えになっています。単に作業をお願いするだけではなく、お互いに理解し、意見を出し合い、学び合っていく関係を築いていきたいです。私自身、静岡の茶畑を守り、次の世代へつないでいきたいという思いがあります。農福連携を通じて互いに成長しながら、将来の農業を明るくものにしていけたらと思っています。

**取材を終えて**

4名が一つのチームとして事業所を出発し、農家を訪問し、仕事を終えて戻ってくる。その日の状況に応じて互いを支えながら、目の前の相手に喜んでいただく姿には、訪問入浴に通じるものがありました。農家さんから「助かった」「ありがとう」と直接感謝を受け取れることは、働く皆さんの責任感や自信にもつながり、その点も訪問入浴との親和性を感じました。農業を支え、人の働く可能性を広げ、地域とのつながりを育てる。農福連携の大きな価値を感じる取材となりました。

## 笑顔と努力がっなぐ、 流山事業所のチームづくり

前回の埼玉支店・与野事業所に続き、今回は千葉支店・流山事業所を訪問。インドネシア出身のデボラさんと嘉陽田所長に、配属後の歩みと日々の関わりについて伺いました。

昨年11月末に配属され、約8か月。デボラさんは、「最初は本当に緊張していました。覚えることも多く大変でしたが、先輩の皆さんがやさしく教えてくれたので、少しずつ慣れることができました」と振り返ります。与野での研修を終え、初めて流山事業所の扉を開けた瞬間、皆さんの笑顔を見て安心したそうです。今後の目標は、「お客様に安心していただける介護士になること。もっと仕事を覚え、チームで協力しながら頑張りたい」と力強く話してくれました。

嘉陽田所長が語るデボラさんの魅力は、何よりも努力を惜しまない姿勢。桃太郎の歌を一晩で覚え、

翌日にはお客様宅で披露したこともあるそうです。分からないことは必ず自分で調べ、日本語も日々上達。「明るい人柄でお客様からも好かれ、事業所の雰囲気まで明るくしてくれています」と目を細めます。SNSでデボラさんのご家族との動画を見た嘉陽田所長は、「彼女の努力を褒め、夢をかなえられるよう全力で支えたい」と語ります。日々の写真を残し、一緒に歌い、時には現場後にズンバ(※)も笑。お互いに学び、支え合いながら、流山事業所らしい明るいチームづくりが続いています。

※ズンバ=音楽に合わせて楽しむダンスフィットネス。初心者でもパーティー感覚で楽しく有酸素運動ができ、ダイエット効果も。

